

本資料には、個別工事費などの機微な情報が含まれているため、一部情報については、マスキング処理をしております。

# 「中部関西間連系線に係る広域系統整備計画」における 関西送配電の調達プロセスについて

2024年10月31日  
広域系統整備委員会  
コスト等検証小委員会事務局

本日のご確認事項について

前回の振り返り

調達プロセスにおけるコスト低減策（関西送配電）

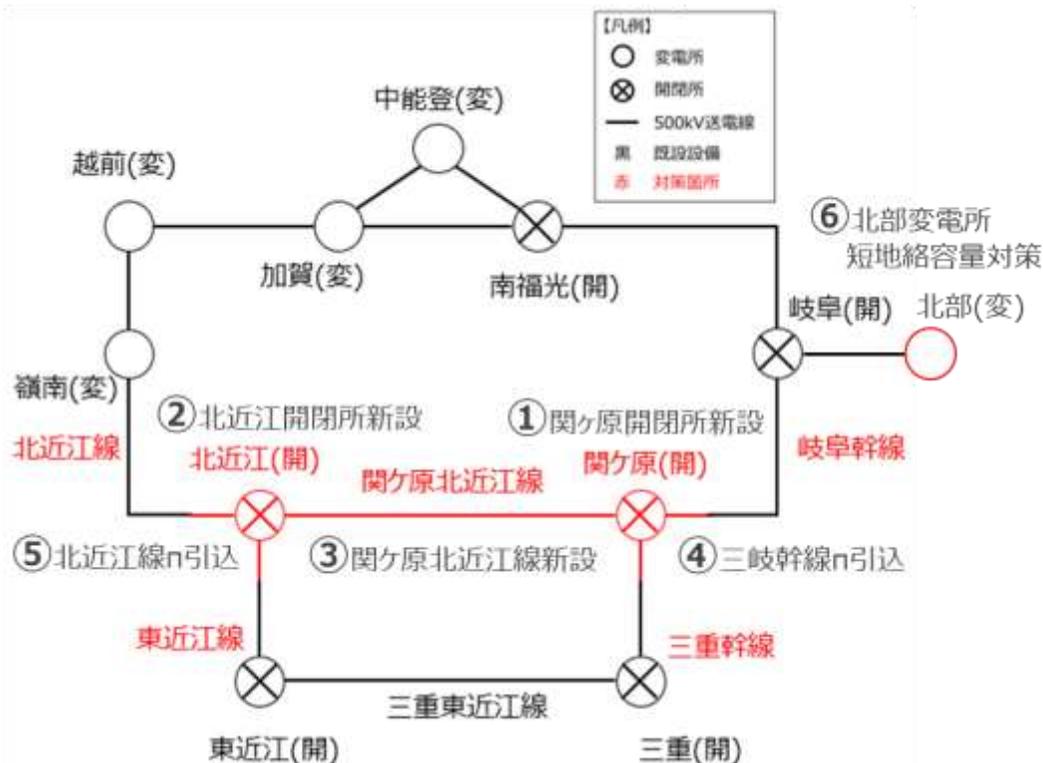
まとめ

- コスト小委フェーズ2は、①調達プロセスと、②工事内容（工事費・工期）について、事業実施主体の準備ができたタイミングで、それぞれ確認を行っている。
- 前回委員会（24/9/25）では、中部関西間連系線に係る広域系統整備計画について、関西送配電における①調達プロセスのうち、発注方式に関して事務局にて整理した内容をご確認いただいた。特に、変電工事のうちGISについては、2010年に随意契約を採用した上で、メーカーに対して発注内示済みであり、随意契約のまま進めることで社内決定済みとのことであった。
- これについて、前回委員会では、なぜ14年にもわたって発注内示を契約破棄しなかったのか、随意契約とするかはコスト低減策としてどういうことを考えているかをしっかり見てからの判断となる等のご意見を頂戴した。
- いただいたご意見も踏まえ、今回はコスト低減策も含めて事務局にて整理した内容をご確認いただき、再度、発注方式についてご議論いただきたい。

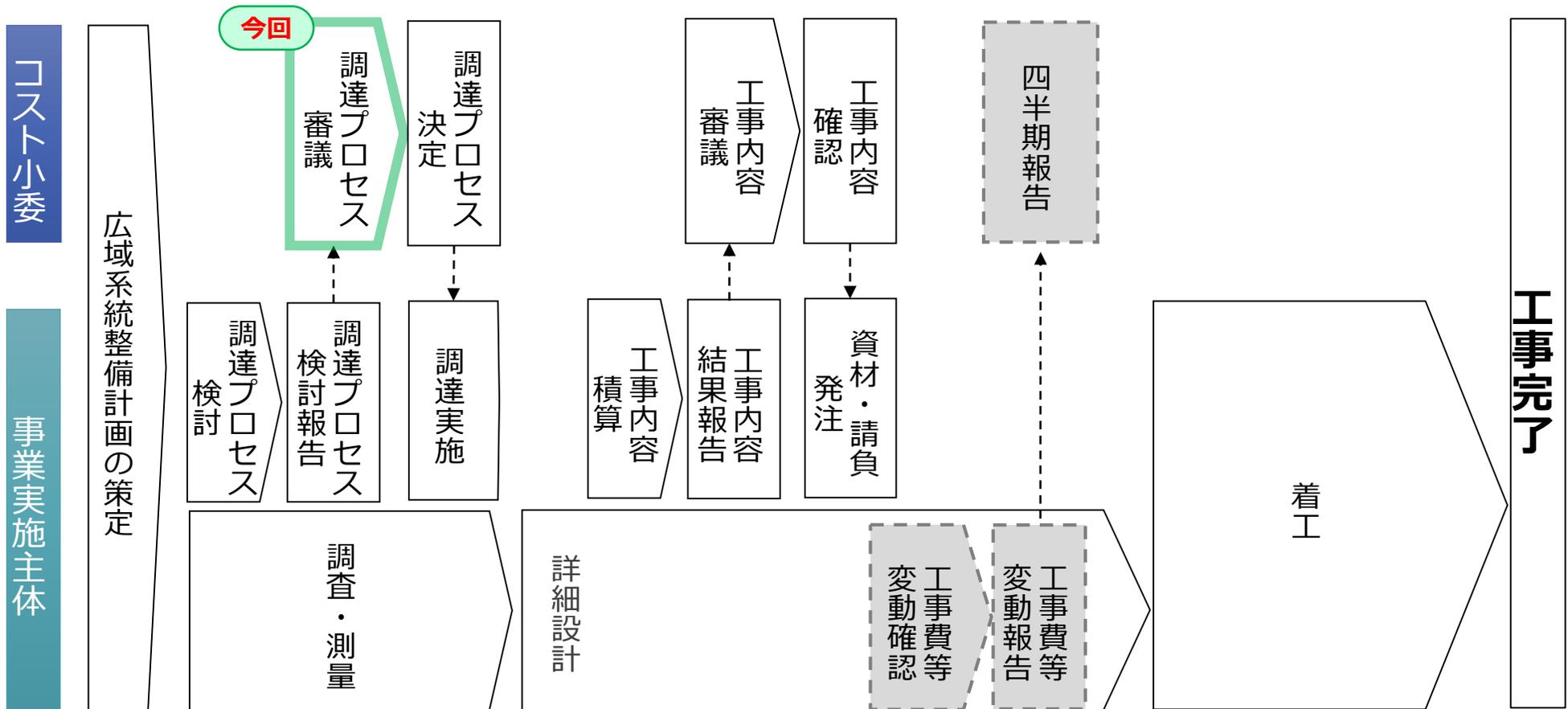
◆ **費用の概算額** 1,218億円  
 工事費の概算額 590億円  
 運転維持費の概算額 628億円

◆ **工事完了予定時期** 2030年6月

◆ **事業実施主体** 中部PG、関西送配電



個別工事件名	事業実施主体
① 関ヶ原開閉所新設	中部PG
② 北近江開閉所新設	関西送配電
③ 関ヶ原北近江線新設	中部PG
④ 三岐幹線n引込	中部PG
⑤ 北近江線n引込	関西送配電
⑥ 北部変電所短地絡容量対策	中部PG
— 電磁誘導対策	中部PG・関西送配電
— 給電システム改修	中部PG・関西送配電
— 通信設備	中部PG・関西送配電



- 「①調達プロセス」のうち、本日は事業実施主体（中部PG・関西送配電）から、調達の基本方針と、主要工事・主要設備における発注方式について説明いただく。
- その上で、次回以降の本委員会において、**市場原理を確保した発注となっているかや、コスト低減の取組がなされた発注方式であるか等**について確認を進めていく予定。

コスト小委における確認事項

確認事項	対象の分類	確認項目	確認の観点	報告タイミング
今回 調達 プロセス	<b>1.発注方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注方式選定の考え方</li> <li>コスト低減策の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「主要設備ごとの発注方式の基本的な考え方」との整合</li> <li>② 基本的な考え方に整合しない場合や、基本的な考え方で複数の調達方法を想定していた場合には、市場原理の確保、コスト低減への取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域系統整備計画の策定後、早期に実施</li> </ul>
工事内容	<b>2.工事費</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注段階の要求仕様、評価方法、工事費</li> <li>具体的なコスト低減施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実施案や過去の工事実績の概算工事費</li> <li>② 工事費が増加する見通しの場合、増加要因・理由や対応策</li> <li>③ 具体的なコスト低減施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査・測量等により設計精度が高まった段階で、資材又は請負発注前まで</li> </ul>
	<b>3.工期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工期の見通し</li> <li>本計画の工事完了時期への影響</li> <li>工期短縮への取組方策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本計画の工事完了時期に対しての変化内容・理由。遅延する見通しの場合、対応策</li> <li>② 工期短縮に向けた事業実施主体の取組・方策</li> </ul>	

## (参考) 検証項目ごとの概要 (調達プロセス)

### ■ 検証の内容

#### ① 調達プロセスの検証

調達プロセスの検証については、市場原理の阻害がないか（合理的な理由なく、競争入札以外を選択していないかなど）や、コスト低減の努力がなされているか等について、以下のとおり、コスト等検証小委員会にて検証を行うこととしてはどうか。

#### ➤ 検証の項目・時期

##### 1. コスト等検証開始から早期（基本的な考え方）

以下について、一括して検証を行う。

- ✓ 広域系統整備計画に係る事業実施主体の調達プロセスに関する基本的な考え方
- ✓ 主要設備ごとの発注方式の基本的な考え方\*

※ 当該時点で調達方法の見通しが立っているものについては、その詳細を確認

##### 2. 「2. コスト検証の概要（検証の時期）」に示す時点

主要設備に対して、「1. コスト等検証開始から早期（基本的な方法）」で整理した基本的な方法によらない場合や、「基本的な方法」の一括検証時点では複数の調達方法が想定される場合は以下について検証を行う。

- ✓ 発注方式
- ✓ コスト低減施策の方法

(工事件名の特性に応じて、競争入札、提案型、共同調達、国際調達など)











本日のご確認事項について

前回委員会（9/25）の振り返り

調達プロセスにおけるコスト低減策（関西送配電）

まとめ

- 関西送配電における主要工事・主要設備における発注方式は基本的には一般競争であるが、変電工事のうちGISについては、2010年に随意契約を採用した上で、メーカーに対して発注内示済みであり、随意契約のまま進めることで社内決定済みとのことであった。
- この理由について、前回委員会において関西送配電からは、
  - ・ 納期変更は契約破棄の正当な理由にはならないと判断し、納期変更で契約を継続してきたこと
  - ・ 契約破棄することで、契約先がそれ以降に関西送配電と取引しないことも考えられるため、そうした契約先との信用毀損リスクを勘案して随意契約のまま進めることを社内決定したことの説明があった。
- これについて、委員から随意契約とするかはコスト低減策としてどういうことを考えているかをしっかり見てからの判断となる等のご意見を頂戴した。

- 関西送配電では、中部関西間連系線における調達の基本方針を**競争発注**としている。
- 中部関西間連系線のうち、主要工事・主要設備における発注方式は以下のとおり。調達の基本方針に則り、透明性や公平性の確保等の観点から、基本的には一般競争を行うこととしている。
- ただし、変電工事のうち**GIS発注**については、**2010年に随意契約を採用した上で、メーカーに対して発注内示済み**であり、**随意契約のまま進めることで社内決定済み**とのことであった。

## 関西送配電における主要工事・主要設備の発注方式

項目	変電工事		送電工事		
	土木・電気工事	GIS	請負工事	鉄塔材	電線
中部関西間 (関西送配電)	一般競争	<b>随意契約</b>	一般競争	一般競争	一般競争

## (参考) 関西送配電が一般競争を選択した理由

- より高い透明性、公平性が確保できる。
- 広く取引先を募集でき、最も競争効果が期待できる。

本日のご確認事項について

前回の振り返り

調達プロセスにおけるコスト低減策（関西送配電）

まとめ

- 調達プロセスにおける主要工事・主要設備のコスト低減策については下表のとおり。
- 変電工事のGIS発注については、随意契約のため、総合評価方式は不採用である。
- それ以外の項目については、同じ中部関西間連系線の事業実施主体である中部PG及び現在整備中の東北東京間連系線の事業実施主体である東北NWが採用したコスト低減策と比べても、同程度のコスト低減策が検討されていることを確認した。

## 主要工事・主要設備のコスト低減策

			コスト低減策	中部関西 (関西送配電)	中部関西 (中部PG)	東北東京 (東北NW)
変電 工事	主要工事	土木・建築工事	VE方式	○	○	○
	主要設備	GIS	VE方式	○	○	○
			総合評価方式	—	○	○
送電 工事	主要工事	請負工事	予報発注方式	○	○	○
			ターゲットプライス方式	○	○	○
			カフェテリア方式	—	○	○
			VE方式	○	○	○
	主要設備	鉄塔材・電線	予報発注方式	—	—	○
			ターゲットプライス方式	—	—	○
			一括発注（共同調達）	○	○	○
			カフェテリア方式	○	○	○
			VE方式	○	○	○

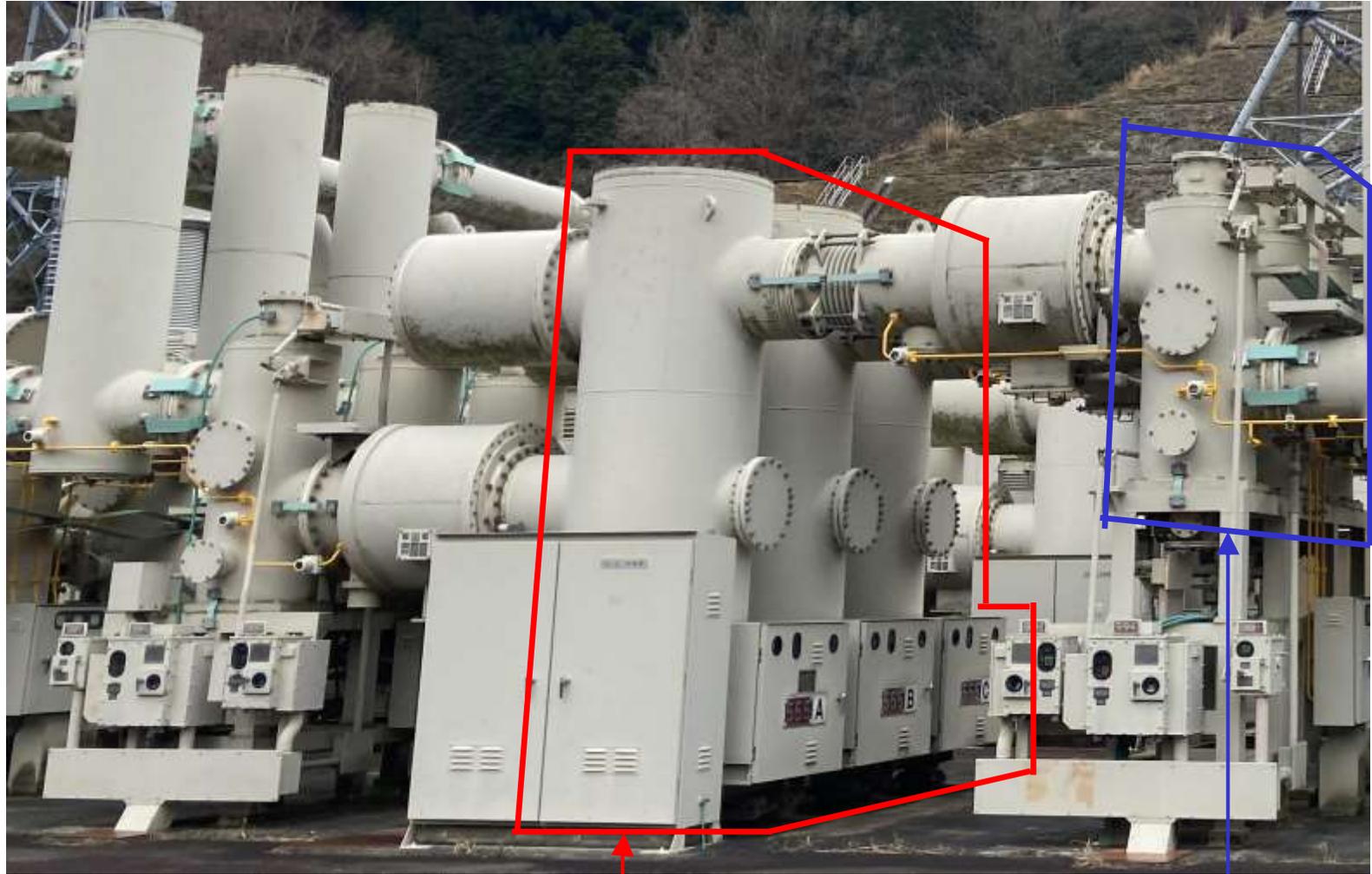
- 変電工事の主要設備の資材調達（GIS）に関しては随意契約であるが、メーカーとの技術検討期間を長期に確保できるというメリットを活かして、機器の設置数削減による特殊仕様の母線構成を検討しているとの説明があった。（次頁参照）

## 関西送配電におけるGISのコスト低減に係る検討内容

第42回コスト等検証小委員会  
(24/7/29) 資料5

提案機種	検討事項	概要
ガス絶縁 開閉装置	新型GIS開発	50Hzエリアで採用されている新型GISの60Hz帯での採用検討 ⇒開発期間を考慮すると、抜本的な仕様変更等は困難な見込み
	機器仕様・配置見直し	母線構成・機器配置の見直しによって遮断器・断路器等のGISユニットの数量低減・資材量の軽減・効率化を図る。
	工事施工方法の見直し	機器仕様・配置見直し結果を踏まえた、運搬方法・回数の見直しや現地施工方法の効率化策について検討（今後実施予定）





遮断器

断路器



本日のご確認事項について

前回の振り返り

調達プロセスにおけるコスト低減策（関西送配電）

まとめ

- 関西送配電では、中部関西間連系線における調達の基本方針を競争発注としているが、変電工事のうちGISについては、信用棄損リスクを勘案して、随意契約のまま進める社内決定をしたとのことであった。
- 随意契約は契約先に対して競争効果が働かないが、関西送配電によれば、メーカーとの技術検討期間を長期に確保できるというメリットを活かして、発注側・受注側協働でのコスト低減策を検討することであった。
- 随意契約で進める上では、現在検討中となっているコスト低減策の効果や実現性なども確定しておらず、一般競争を行った場合と比較して契約額が高くなる懸念は依然として残る。
- 一方、本委員会として、信用毀損リスクを踏まえた随意契約という関西送配電の判断を覆し、一般競争入札に変更する根拠にも乏しい。
- 現時点で競争発注と遜色がなくコスト低減がなされるかを確認できないことを踏まえると、本委員会としては、随意契約であってもコスト低減がしっかりなされたのか、その結果をプロセスの進捗に応じて適宜確認していくことが妥当ではないか。
- 競争発注と比較して何らかの費用増加があれば、電力・ガス取引監視等委員会の料金審査において、これまでの経緯や審議の結果を踏まえた上で判断を行うことになると思う。